

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170201412), 法人名 (はまなす介護センター(株)), 事業所名 (はまなす介護センター光星), 所在地 (札幌市東区北13条東13丁目2番3号), 自己評価作成日 (平成29年9月20日), 評価結果市町村受理日 (平成29年11月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームはまなす介護センター光星は、地下鉄の駅からもほど近く、車をお持ちでない方もご来所しやすく、入居前からの人間関係が途切れにくくなっており、場所も住宅地の中にある為、何かあった時は近隣住民の方とも助け合う事が出来ます。春には近くの公園に桜が咲き、近所のお宅には可愛い花も咲くため、散歩の際の楽しみがあります。今年7月に開催した施設の夏祭りでは、カキ氷機、わた菓子機を借り、お祭りの雰囲気を楽しんで頂きました。天候にも恵まれ、みなさま大変喜ばれておりました。8月には町内会で開催したお祭りにも参加させて頂き、歩ける方、車イスの方にもぎやかな雰囲気を楽しませて、地域の方との交流も持てました。日常生活では、一緒に出来る方は職員と一緒に家事を行い、出来ない方はご自分の身の周りのどんな小さな事でも可能な限りして頂ける様援助し、入居者様が今まで通り安らぎを持って今の生活を続けていける事を目標としています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170201412-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年10月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市の市街地に近い古くからの住宅地に建ち、コンビニ・飲食店・公園にも近く交通の便も良い鉄筋4階建て3ユニットの事業所である。法人の運営理念『あわせになる』を基本とし、管理者及び職員は、優しさと思いやりの心で、利用者の持てる力を発揮できる場を作り、洗濯物たみや調理の下ごしらえ等の昔馴染みの家事に参加することで、残されている能力や潜在能力を引き出し、利用者個々の身の状況に応じた自立支援に努めており、家族の信頼も厚い。また身体機能に合わせた体操や趣味活動を日課としており、事所内でも安全に楽しく過ごせるよう配慮している。見た目にも美しい職員手作りの食事は、栄養バランスやカロリーに気を配り、個々の嚥下や咀嚼に合わせ提供している。運営推進会議は2か月に一度定期的に開催され、家族・町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員等が出席し、利用者の状況報告・行事予定・事故報告・地域との交流を話し合い、質疑応答等で活発な意見交換が行われており、ケアの充実と事業所の運営に役立っている。恵まれた住環境の中で、利用者が必要とする適切なサービスを提供している、地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	幸せになるという理念のもと、豊かで、充実した生活が送れる様ケアに努めている。	はまなす介護センターの運営理念である、『幸せになる』を事業所内の随所に掲示し、重要事項説明書に明記している。また各ユニット毎の目標も作成し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の行事に参加して頂いたり、町内のお祭りに遊びに行き、日常的に交流している。	町内会に加入している。夏祭りやクリーン作戦等の地域行事に参加しており、事業所の夏祭りには、地域の人々が参加し良い交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂き、実践で積み上げた認知症の人の支援方法を地域の人々にお話しし、理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にも近況報告や情報交換をし、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度定期開催している運営推進会議には、家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員等が出席し、各ユニットの状況・食事・口腔ケア・事故報告等が話し合われ、事業所の運営やケアの充実に効果を上げている	事業所の取り組み状況が利用者家族に伝わる様に、運営推進会議終了後は、参加者と家族に議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区で開催する管理者会議に出席したり、区の担当者にも運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを伝え協力して頂いている。	市や区の管理者連絡会議に出席し、行政方針の理解に努めている。地域包括支援センターとも連携して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束について学ぶ機会を持ち、正しく理解し、ケアに取り組んでいる。	『身体拘束等の排除のための取り扱いに関する理念及び方針』を掲示し、ケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。身体拘束や虐待に関するマニュアルは整備し、拘束のない自由な生活をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、学ぶ機会を持ち、日々のケアで虐待にあたる行為がないか、職員同士が注意し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて、学ぶ機会があり活用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問点を理解して頂ける様、十分な説明を行い改定があった時は再度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話連絡にて意見・要望を伺い、各階にも意見箱を設置し運営に反映させている。	1階玄関と各ユニットに意見箱を設置している。家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞き、運営に反映するよう努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内や職員会議にて、意見や提案を聞く機会を設け反映できる様にしている。	月一度の全体会議やユニット会議で、職員からの意見や提案を聞く機会がある。そこで出た意見は、ケアサービスの充実に効果を上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ、各自が向上心を持って働ける様努めている。代表者は管理者を通じ職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設け、働きながら実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、同業者と交流しサービスの向上をはかれる様、会議等で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学や面談を行い、不安や要望を伺い、安心して入居して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望に耳を傾け、いつでも相談して頂ける様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に情報を頂き、ご本人様・ご家族様からも要望を伺い必要としているサービスを提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を送る中で、出来る事はして頂き、家事等を一緒に行い、共に協力、支え合い、役割を持ち生活して頂く様に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況を報告し、来所時や行事等でご本人様と関わる機会を設け共にご本人様を支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人との関係が途切れない様、面会・電話・外出などの支援に努めている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、家族を含め親族や知人の訪問もあり、継続的な交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、関わりが持てる様食事の席の工夫やレクリエーションを通じ交流が持てる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も困った事があれば連絡して頂き、必要に応じて支援する様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向に出来る限り添える様職員同士で話し合い、ご本人様本位な支援が出来る様マネジメントを行っている。	事業所独自のアセスメントシートを活用し、生活全般の解決すべき課題や目標を定め、利用者本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方をご家族様やご本人様から伺い、今まで利用して頂いたサービス機関から情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方やご本人様の状態を観察し、記録に残し、情報を共有し現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がより良く暮らせる為の課題を職員同士で話し合い、必要関係者からの意見を反映し、ご家族様からの要望も伺い介護計画を作成している。	利用者・家族・担当者・看護師などの関係者と話し合い、介護支援専門員を中心にして十分に検討し、個々に適した利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録に残し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時に必要としているサービスに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は、町内の方々に協力して頂き、安全で豊かな生活が送れる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族様・ご本人様と相談の上、希望の医療機関で適切な治療が受けられる様支援している。	古くからのかかりつけ医を受診している利用者もあり、緊急時には通院介助もしている。協力病院医師は週一度往診に来ており、事業所には看護師が勤務し利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が来ており、利用者様の様子を報告・相談し、受診や往診のアドバイスを受け適切な医療サービスが受けられる様支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供をし、入院中の病状確認を行いながら病院関係者と連携を図り、早期退院につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期の指針を説明している。重度化した場合は、早い段階でご家族様・医療機関・職員で話し合い方針を決めている。	医療連携体制のもと、『重度化した場合の対応に係る指針』を整備し、家族・医師・職員が方向性を話し合い、利用者や家族の希望を尊重し最善を尽くしており、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に関するマニュアルがあり、定期的に会議にて確認し合い適切な対応が出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、町内会・消防署の協力のもと、夜間設定の避難訓練を行い、水・食料等の備蓄を行っている。	年2回、消防署協力のもと夜間想定避難訓練を実施している。地域住民や利用者が参加し、常に災害を意識して取り組んでいる。	災害時対策として、停電や断水に備えられるように今ある備蓄品を見直し、ポータブルストーブ・生活用水・防災食等を、法人本部と検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉掛けを心がけている。	利用者の、プライドや羞恥心を大切にした対応をしている。秘密保持に関しては利用契約書に明記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様な声掛けをし、うまく伝える事が出来ない方は、表情や様子から思いをくみ取り、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合優先ではなく、一人ひとりのペースを大切に、可能な限り希望に添える様に、その人らしく生活が送れる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温の変化に気を配り、利用者様の好みに合わせ洋服を選び、月2回来所する美容室でも本人の希望する髪型にもらい、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体レベルに合わせ食事形態を刻みやミキサー食などに換え盛りつけや器等も工夫している。又、嫌いな食材は別の食材に変え、食事が楽しみになる様にしている。体調をみて、もやしの芽とり・大根おろし・食器拭き等を一緒にやっている。	食事の下ごしらえや盛りつけを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。個々の体調や、嚥下状態に合わせた職員手作りの食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が決めている。一人ひとり食事量・水分量を記録し、足りない部分は促しをしたり、他の物で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態・習慣に合わせて、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来る様トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが3カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に水分を多く摂って頂ける様心掛け、体操を行い適度に体を動かして頂き予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望がある時は、できる限り本人の希望に添える様にし、その日の体調や気分に合わせて入浴の支援を行っている。	同性介助を基本的とし、利用者の希望に合わせた支援をしている。入浴時は会話も弾み個々の状況を把握する良い機会と捉えており、必要に応じシャワー浴や清拭にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて好きな時に入床・入眠が出来る様にし、快適に休んで頂ける様に温度・湿度等に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量については処方箋にて理解し、服薬時は職員2人で確認を行い服薬を行っている。又、変化があった時は医師・看護師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に家事を行ったり、好みのテレビ番組を見て頂いたり、工作等の趣味も楽しんで頂ける様にし、季節の行事や誕生会等を楽しみひとつとなる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の突然の外出は難しい為、予め予定を組んで散歩や買い物に行ったり、ご家族様の協力をもらいながら外出支援を行っている。施設の行事でもご家族様・町内会の方たちの協力を得ている。	利用者は町内会の夏祭りに参加している。事業所の夏祭りは玄関前で開催し、外に出る良い機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金として事務所で管理しており、必要に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけることができ、手紙のやり取りも出来る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行い、季節感を楽しんで頂いたり、室温や光量の調節を行い、居心地よく過ごせる工夫をしている。	共用空間であるリビングの壁には、法人の理念が額入りで掲示してある。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が楽しく交流を持てる様に、食事の席やソファの配置に気をつけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し、使い慣れた家具等を持って来て頂き、配置は使いやすさ・安全に気を配り、心地良く過ごせる様工夫している。	約八畳間の居室には、洗面台が設置してある。家族とともに危険箇所がないかなどの点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置し、安全に配慮し、食堂・トイレ・浴室等もわかりやすく表示している。		